

リニア推進本部水野副本部長の見事な嘘っぱち!

JR東海6月号で、水野副本部長のリニア中央新幹線についてのインタビューが掲載されている。毎度お馴染みまったく進歩のないコメントが臆することもなく述べられている。せめて国民へのだまし討ちとも言える「総額3兆円にも上る財投」には真摯に感謝を述べるべきだ。



毎度本誌で強調していることだが、懲りずにまた「地域住民への丁寧な工事説明会、環境の保全、工事の安全、用地取得、起工式や着工、残土とは言わず発生土などと、急ぐ2027年の開業にむけすべてが順調に推移している」というデマ情報にいそしむ水野氏。つまり社内向け、社員の潜在意識をマインドコントロールするためのルーティンワークというわけだ。

住民は、南アルプスへのトンネル掘削工事など、困難を極める超難工事に対し、環境アセスの調査結果を求めているだけである。これに対しJR東海は、「準備書でお示しします」と退け、次は「評価書でお示しします」と避け、最後は説明会も開催されず、住民の疑問に最後まで答えなかった。

これがJR東海のいう「地域の皆さまへの丁寧なご説明」というわけだ。

つまり住民を安心させる根拠なるデータが何も存在していないことが既にはっきりしているのだ。なのに大鹿村では、住民への告知もなく突然掘削工事が始まる。行き場の定まらない残土はいずこへ・・・?

住民の質問にまったく答えないJR東海



これが丁寧な説明会の風景?

準備書での住民説明会で、突然閉会宣言がされたことに、まだ質問に答えていないと、JR東海の職員に詰め寄る住民たち(13年10月14日)

何れ工事は立ち行かなくなることは火を見るより明らかだ?